

# SHOW HEY シネマール

★★★

## 探偵はBARにいる3

2017年/日本映画  
配給：東映/122分

2017 (平成29) 年 12月6日鑑賞

梅田ブルグ7

### Data

監督：吉田照幸

原作：東直己 『ススキノ探偵』シ  
リーズ (ハヤカワ文庫)

出演：大泉洋/松田龍平/北川景子  
/前田敦子/リリー・フラン

キー/志尊淳/鈴木砂羽/

田口トモロヲ/マギー/安

藤玉恵/正名僕蔵/篠井英

介/松重豊/野間口徹/坂

田聡/土平ドンペイ/斎藤

歩/前原滉/天山広吉/片

桐竜次

## ■ショートコメント■

◆公式ホームページによれば、本作のイントロダクションは次の通りだ。

# INTRODUCTION

邦画界唯一にして無二。  
時代が求めたエンターテインメント。

妖しいネオンが瞬く、アジア最北の歓楽街＝札幌・ススキノ。  
この街の裏も表も知り尽くした、自称「ススキノのプライベートアイ」——探偵。

札幌在住のミステリー作家・東直己の「ススキノ探偵」シリーズは、長年ミステリーファンに愛され累計発行部数160万部を超える東氏の代表作。ススキノを縦横無尽に駆け回る探偵の活躍を、ハードボイルドに紡いだこの原作が、2011年『探偵はBARにいる』で初の映画化。主人公＝探偵に大泉洋、その相棒＝高田には松田龍平。本作が全くの初共演となる2人だったが、その相性は予想以上。ハードな世界観を絶妙なハードボイルドに落とし込み、唯一無二の存在感を發揮。日本アカデミー賞優秀作品賞をはじめ数々の映画賞を受賞し、映画史に残る名コンビとして幅広い世代の心をつかむことになる。続く2013年に公開された『探偵はBARにいる2 ススキノ大交差点』もヒットを記録し、誰もが次作を待ち望む人気シリーズとして、確固たる地位を築いた。大泉洋自らが舞台挨拶の場で「パート3やります！」と公言してから、4年……。俳優としてさらなる飛躍を遂げた2人が、ついにススキノに帰って来る！まさに満を持してのシリーズ第3弾は、探偵ファンの期待をはるかに超える“シリーズ決定版”と呼ぶにふさわしい。

## 【探偵】大泉洋 × 【その相棒】松田龍平 × 【新たなヒロイン】北川景子 豪華ゲスト&おなじみの 〈ススキノの住人達〉も集結。

主人公=探偵には、もちろん大泉洋。NHK大河ドラマや話題作への出演が続き、今や引く手あまたの超人気俳優となった大泉だが、本作にかける思いは特別。お茶の間で愛される明るいキャラクターとは一味違う、男くささと時に哀愁をも漂わせながら、誰もが認めるはまり役となった探偵を熟演する。探偵の相棒兼運転手を務める高田には、常に新たな表情で独自の存在感を放ち続け、話題ドラマ「カルテット」(TBS)での好演も記憶に新しい松田龍平。探偵の窮地には必ず「遅れて」やって来る高田を今回も颯々と演じ、シリーズファンを歓喜させること間違いなし。

そして注目のニューヒロインには、映画、ドラマと幅広く活躍する北川景子。ひれ伏したくなるような絶対的な美しさで、時折見せる子供のような無邪気さで、探偵の心を激しく惑わせる。事件のカギを握る女子大生役に前田敦子、闇社会で暗躍するシリーズ史上最凶の悪役と噂される男にリリー・フランキー、探偵の記憶の手がかりとなる伝説の娼婦役に鈴木砂羽、高田を打ち破る強敵役に若手実力派俳優・志尊淳など、豪華新キャストが続々集結。人気シリーズに容赦なく新風を吹き込んでいく。

もちろんおなじみのメンバーたちも健在。田口トモロヲ、マギー、安藤玉恵、篠井英介、松重豊、土平ドンペイ、片桐竜次などのレギュラーキャストが続投するのもシリーズならではの醍醐味である。

監督は国民的人気を誇ったNHK連続テレビ小説「あまちゃん」、映画『サラリーマンNEO 劇場版(笑)』、『疾風ロンド』などを手がけた吉田照幸を大抜擢。「この映画の一番の見せ場は、探偵と高田の人間ドラマ。男同士の友情みたいなことを、いい大人になってもやり続けている2人の面白さなんです。そんな2人の何気ない会話を、吉田監督はきちんと切り取ってくれるはずだと確信しています」(東映プロデューサー=須藤泰司談)。新監督のもとで、2人の進化したケミストリーが期待される。脚本は第1作から手がけてきた古沢良太が、原作のエッセンスを存分に散りばめつつも自由で大胆な発想でアレンジを加えた。大泉洋と何度もディスカッションを重ねじっくり練っていったという脚本は、映画らしいスケール感と共に、深い余韻を残す結末へと導いてくれる。

### 今度の【探偵】は、何かが違う――。

変わらぬ街。変わらぬ2人。だがシリーズ3作目にして描かれるのは、ついに訪れる探偵と高田の“別れ”……!? 探偵史上最も切ない過去を背負う依頼人は、予想だにしない方向へ2人を誘(いざな)っていく。

探偵を執拗に狙う、人の心を持たないサディスティックな悪魔。無敵を誇った高田を倒す、ありえない強者の出現。

少しずつ狂い出した、探偵と高田の歯車。そして“最後の事件”は、衝撃のクライマックスをに向けて走り出す!

これまで見たことのない『探偵はBARにいる』に、あなたもきっと涙する――。

◆公式ホームページによれば、本作のストーリーは次の通りだ。

# STORY

**【最高のコンビ】**が迎える**【最大の危機】**。  
悲しくも激しい**【最後の事件】**が始まった。

「恋人の麗子が失踪した」。高田の後輩からのありふれた依頼を安易に引き受けた探偵。早速調査に乗り出すと、探偵は麗子がアルバイトをしていたモデル事務所のオーナー・マリと出会い、かすかな既視感を覚える。しかし周囲を嗅ぎまわる探偵はマリの手下に襲われ、これまで無敗を誇った高田も倒されてしまう。次第に麗子の失踪の陰に、裏社会で暗躍する札幌経済界のホープ・北城グループの殺人事件が見え隠れする。マリはグループの代表・北城の愛人だった。そんな中、何かを思い出す探偵。なじみの元娼婦・モンローがかわいがっていた、今にも死にそうに産んでいた女——「あれか…？あれがマリか…？」緊張が走る裏社会、巨額の薬物取引、2つの殺人事件——。すべてはマリによる、北城をも欺く作戦であった。そしてマリは、探偵に最後の依頼を託す。その時、探偵と高田の別れへのカウントダウンが始まっていた。

◆本作は決して悪くはない。いやいや、見ていてむしろ楽しいもの。「俺」と第一人称で語る主役の探偵役の大泉洋と、その相棒兼運転手の松田龍平、この2人のキャラがきっちり固まり、札幌のススキノを舞台に、セコい(?)、けれども、それなりの人情味溢れる探偵稼業に猛進し、結果はもちろんハッピーエンド。

そんな、『探偵バー』のシリーズ化が決まり、本作はその3作目。そして、字幕終了後のちょっとした「予告」を見れば、4作目の製作も射程距離だ。

◆『男はつらいよ』シリーズ全50作は、さる12月5日の竜王戦で渡辺明竜王を破って、通算獲得タイトル数を99期としたうえ、『永世称号』を持つ竜王、名人、王位、王座、棋王、王将、棋聖という7つのタイトル戦について、「永世七冠」を達成した羽生善治氏と同じような前代未聞の領域だが、「シリーズもの」はいくつもある。近時は「釣りバカ」シリーズがそうだし、山田洋次監督の『家族はつらいよ』もシリーズ化されている。

この手の「シリーズもの」は安定感があるから、映画館がお家のリビングルームと同じようなもので、少し居眠りしても全然差し支えない、予定調和の楽しい物語をリラックスして楽しむことができる。それはそれでいいのだが、それでは逆に映画館に行こうという意欲を削ぐことにも・・・？本日の観客の入りはバラバラだったし、私ももうこのシリーズは打ち止め・・・。

◆本作に見る、大泉洋と松田龍平の2人の安定感は抜群。また、スクリーン上に次々と登場してくる札幌ススキノの街並みも私には馴染みのある風景だから興味深い。もっとも、そこを舞台とし、末端価格4億円という「シャブ」が問題となる殺人事件に探偵が巻き込まれる展開にもかかわらず、本作に見る「ヤクザ抗争」はビートたけし監督の『アウトレンジ 最終章』（17年）の生々しさとは正反対の少し楽しいもの・・・？

他方、北川景子は『真夏のオリオン』（09年）での演技が強く印象に残っている正統派美女（『シネマルーム22』255頁参照）だが、本作ではストーリーのミステリー的部分を牽引する重要な役割を担うので、それに注目！とりわけ本作では、後半に至ってやっとその本性を見せながら「お願いします！」と心をこめて訴えるセリフが、『真夏のオリオン』における「敬礼シーン」と同じように大きなポイントになるので、それに注目！

◆他方、本作で失踪する女子大生・麗子役を演じた前田敦子は、ちょっともったいない。もっとも、麗子役は前田敦子の1つの側面を示すもので、本作ではこの程度の脇役で十分かもしれないが、彼女の演技力はこんなレベルではないので、私としては彼女の主演作を期待！

まあ、現在の邦画界における本作のような映画は、期待度も満足度もこんなもの・・・。それなりに満足して家路に・・・。

2017（平成29）年12月8日記